



2023年3月期 第2四半期

決算説明資料



Future Venture Capital

1	決算概要	P.4
2	各事業の概要	
	ファンド運営事業	P.8
	永久保有型M&A	P.13
3	真の金融の実現を	P.18

1	決算概要	P.4
2	各事業の概要	
	ファンド運営事業	P.8
	永久保有型M&A	P.13
3	真の金融の実現を	P.18

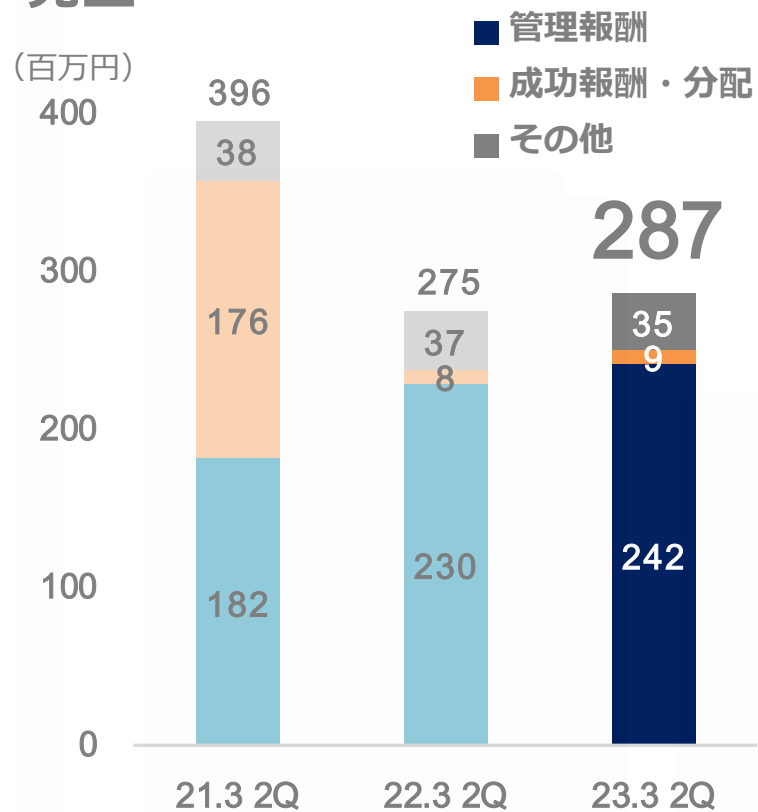
- ① 売上高は**+4.5%**（前年同期比）の287百万円
ファンド新規設立による管理報酬の増加が寄与

- ② 経常損益は**△14.2%**（前年同期比）の103百万
2022年6月23日付 定時株主総会対応費用による販管費の増加が影響

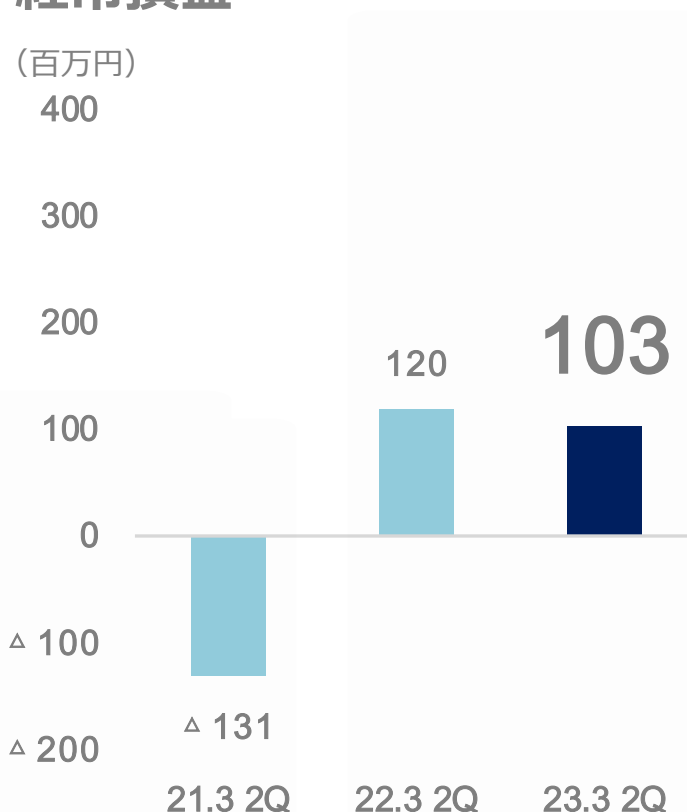
- ③ 当期損益は**約3倍**（前年同期比）の301百万、デジアラHDの一部
売却による特別利益275百万を計上

PLの状況

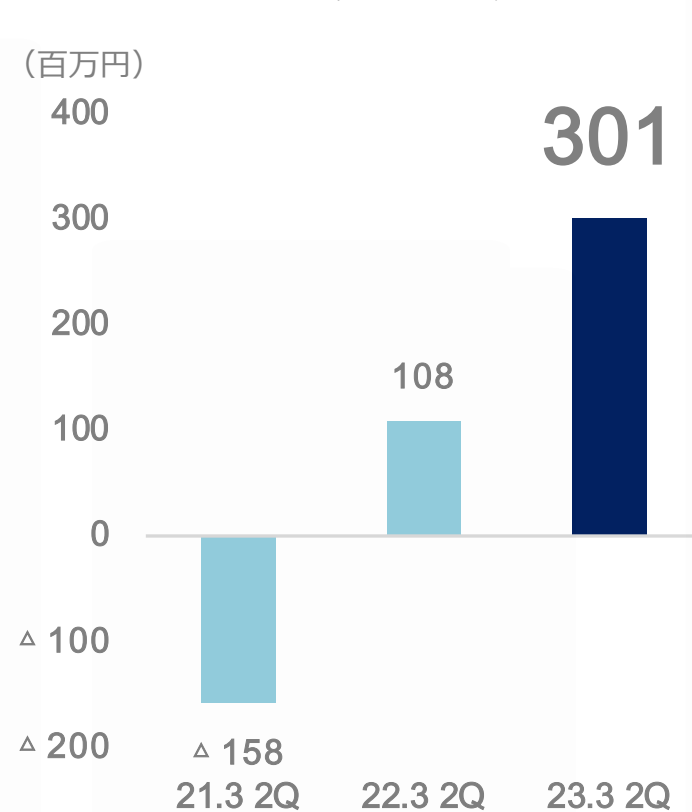
売上



経常損益



当期損益 (親会社株主帰属)



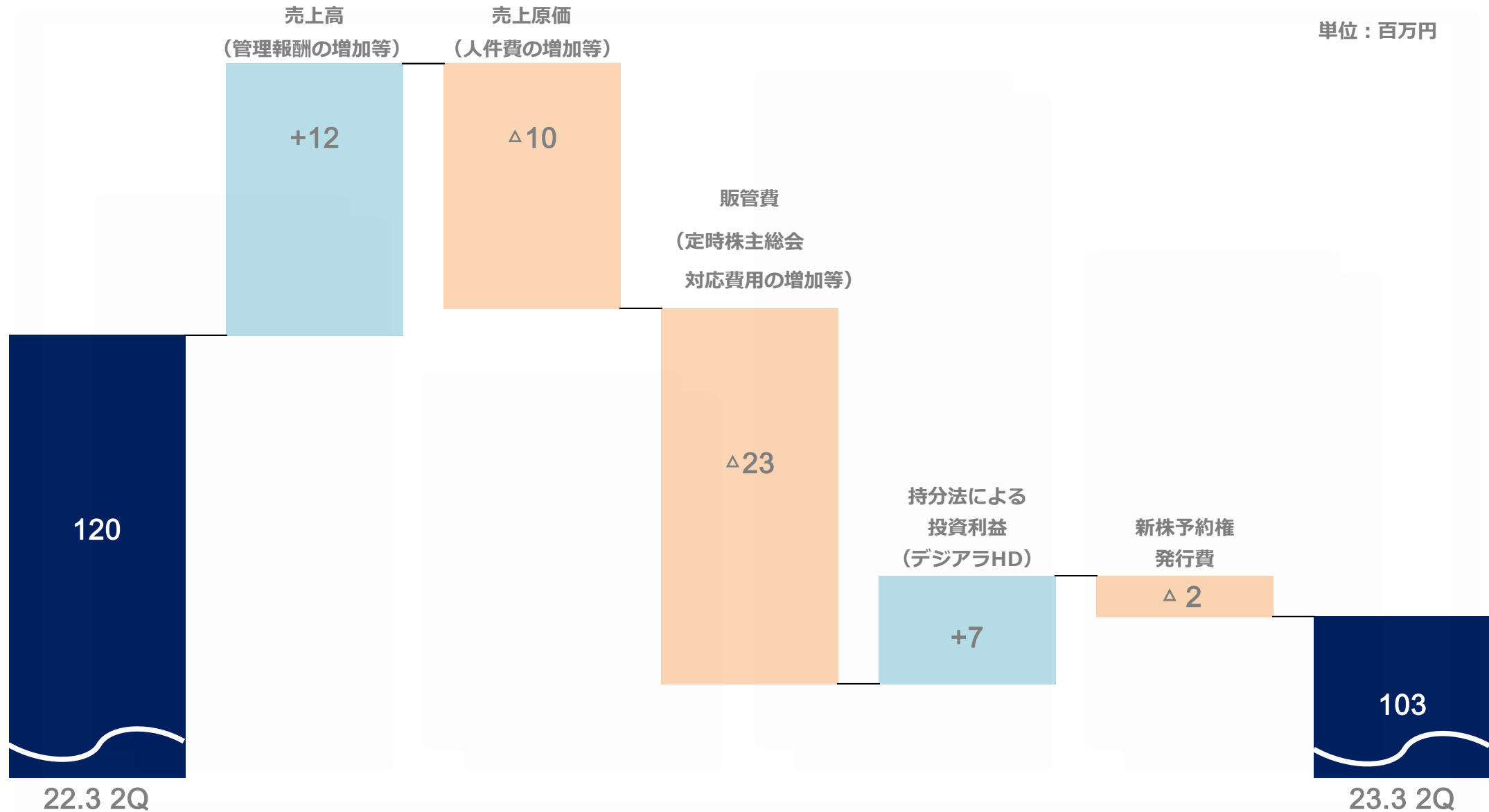
関係会社株式売却益 (特別利益)

275百万円計上

※従来の決算説明資料での表記から次の通り区分変更しております。

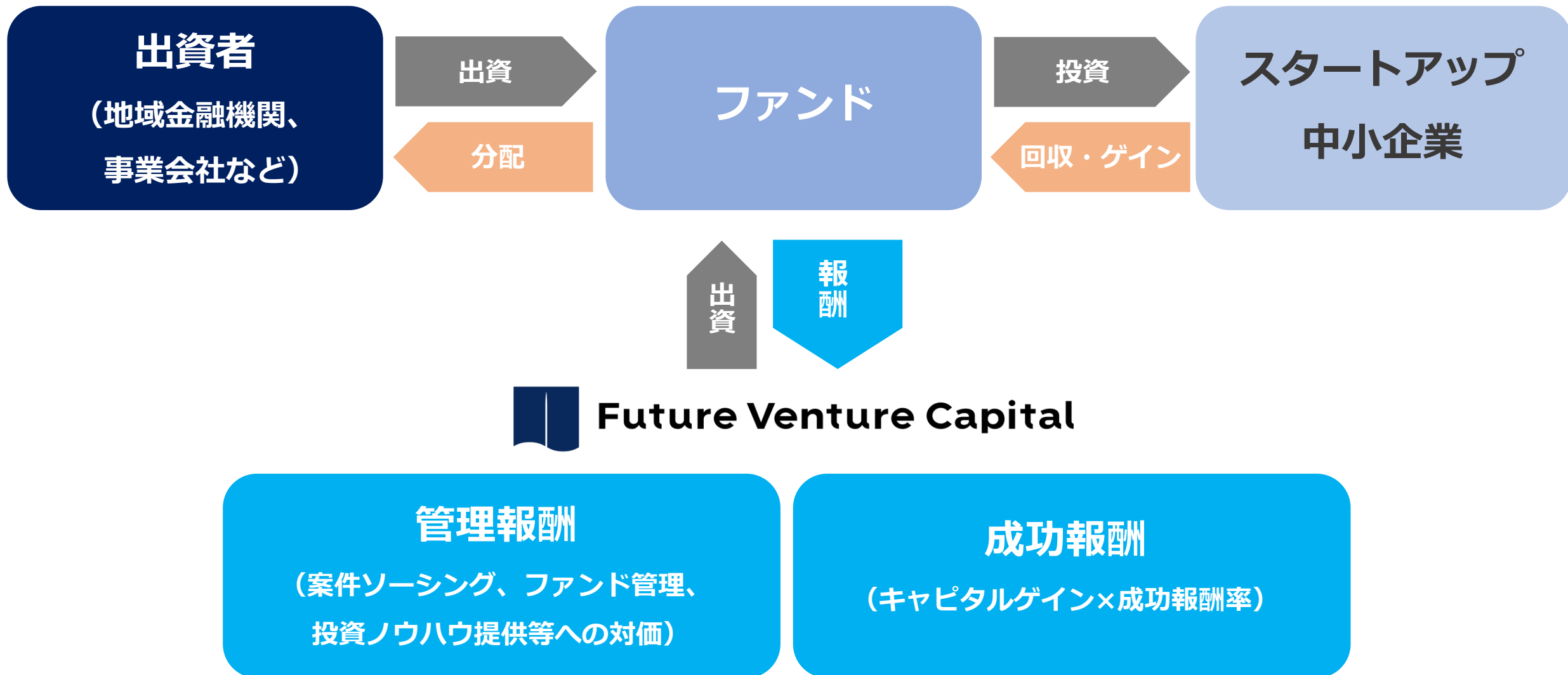
- ・ 投資事業組合等管理収入 → **管理報酬**
- ・ 成功報酬売上、営業投資有価証券売上高 → **成功報酬・分配等**
- ・ コンサルティング収入、コワーキング収入、その他 → **その他**

経常損益の増減分析 (対前年同期比)



1	決算概要	P.4
2	各事業の概要	
	ファンド運営事業	P.8
	永久保有型M&A	P.13
3	真の金融の実現を	P.18

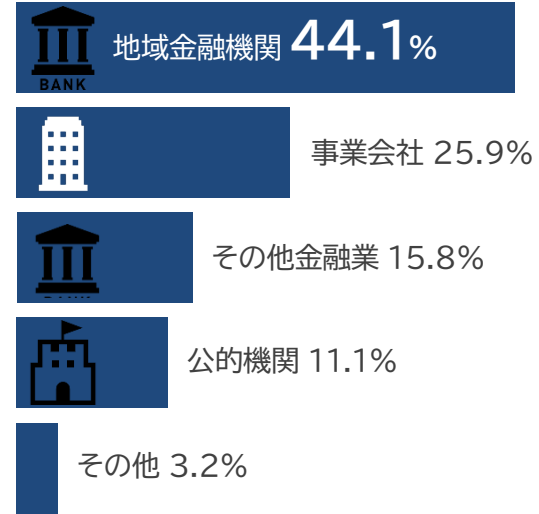
ファンド運営事業のビジネスモデル



FVCの強みと特徴

1 地方創生実績と ブランド

主な出資者構成



2 地域金融機関 ネットワーク

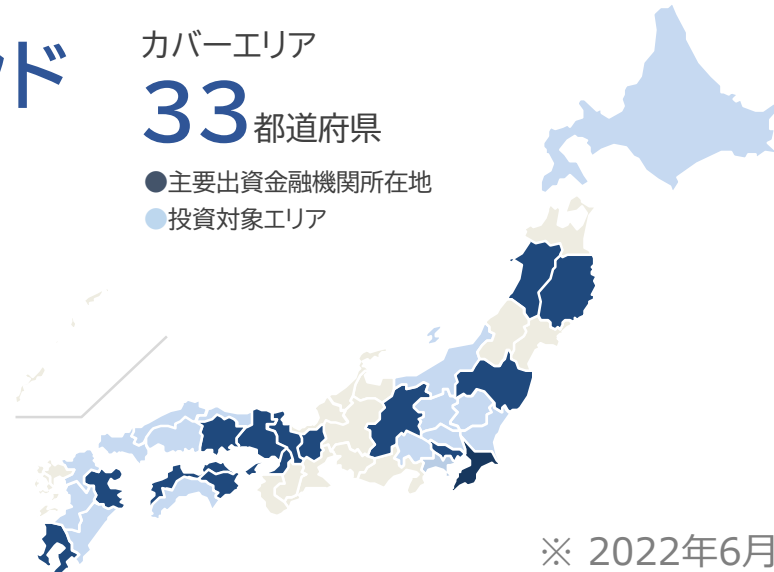
3 約50本のファンド 業務処理能力

地方創生ファンド投資対象エリア

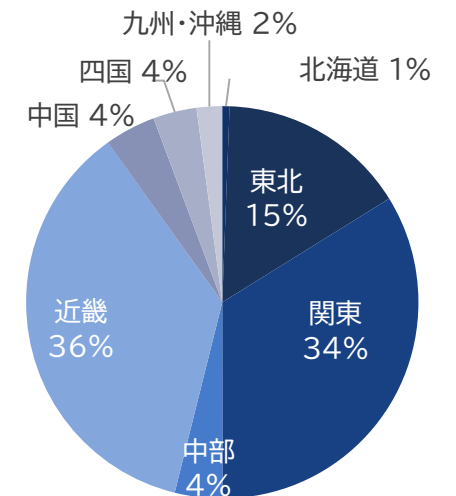
カバーエリア

33 都道府県

- 主要出資金融機関所在地
- 投資対象エリア

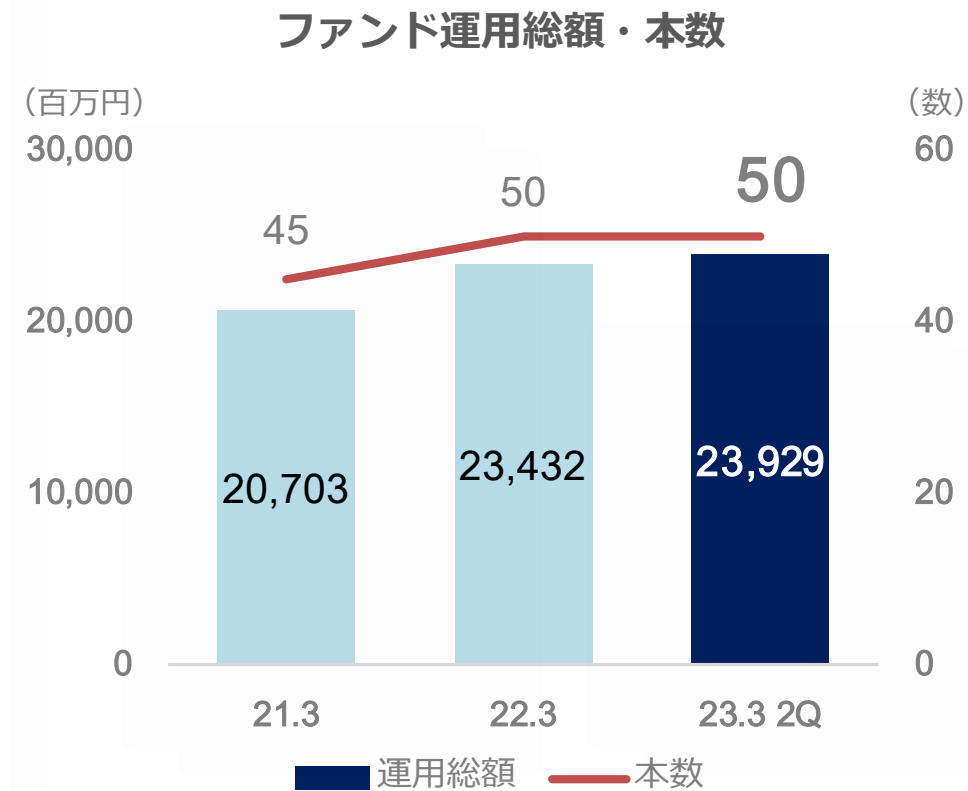


投資先企業 地域分散

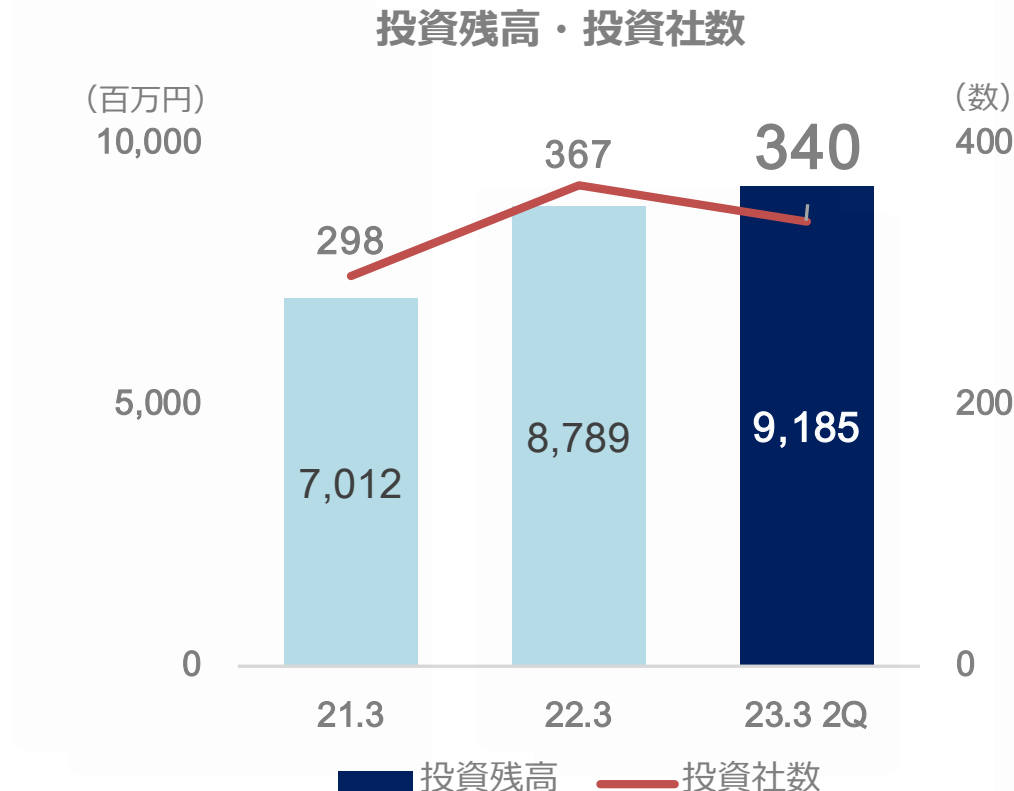


※ 2022年6月末時点

ファンドの状況



※ ZMPに投資しているFVCグローブ二号ファンドは運用期間を延長しています。



※ 投資残高、投資社数ともに減損を考慮しています。

2026年3月期までに約40億円分のファンドに満期が到来します。

ファンドモデルの標準化⇒営業拡大により、**2026年3月期に運用総額270億円**を目標に設定しています (9月12日付 新・中期ビジョンと成長戦略を参照)

約50本のファンド

地方創生ファンド

- 出資者である地域金融機関の営業エリアに限定し地域活性化に資するファンド
- 案件発掘からハンズオン支援そして出口戦略まで、FVCと地域金融機関が二人三脚で協調

CVCファンド

- 中堅事業法人を主な対象とし、事業シナジーと投資リターンの両立を目指す
- FVCならではの全国的案件フローを活かした、事業会社ではアクセスできないベンチャーへの接点が強み

少額ファンドを多数運営する**人的負荷が課題**

拡張性確保のための施策

ファンド組成からモニタリング、出口戦略までを**標準化**

投資担当者が担っていた**事務処理業務**をミドル・バックオフィスへ集約

IT投資により、ファンド運営を支える**ミドル・バックオフィス業務の効率化**

投資担当者の活動余力を確保し、**投資先のソーシング及びモニタリングの強化**

1	決算概要	P.4
2	各事業の概要	
	ファンド運営事業	P.8
	永久保有型M&A	P.13
3	真の金融の実現を	P.18

Circular Economy

循環型経済

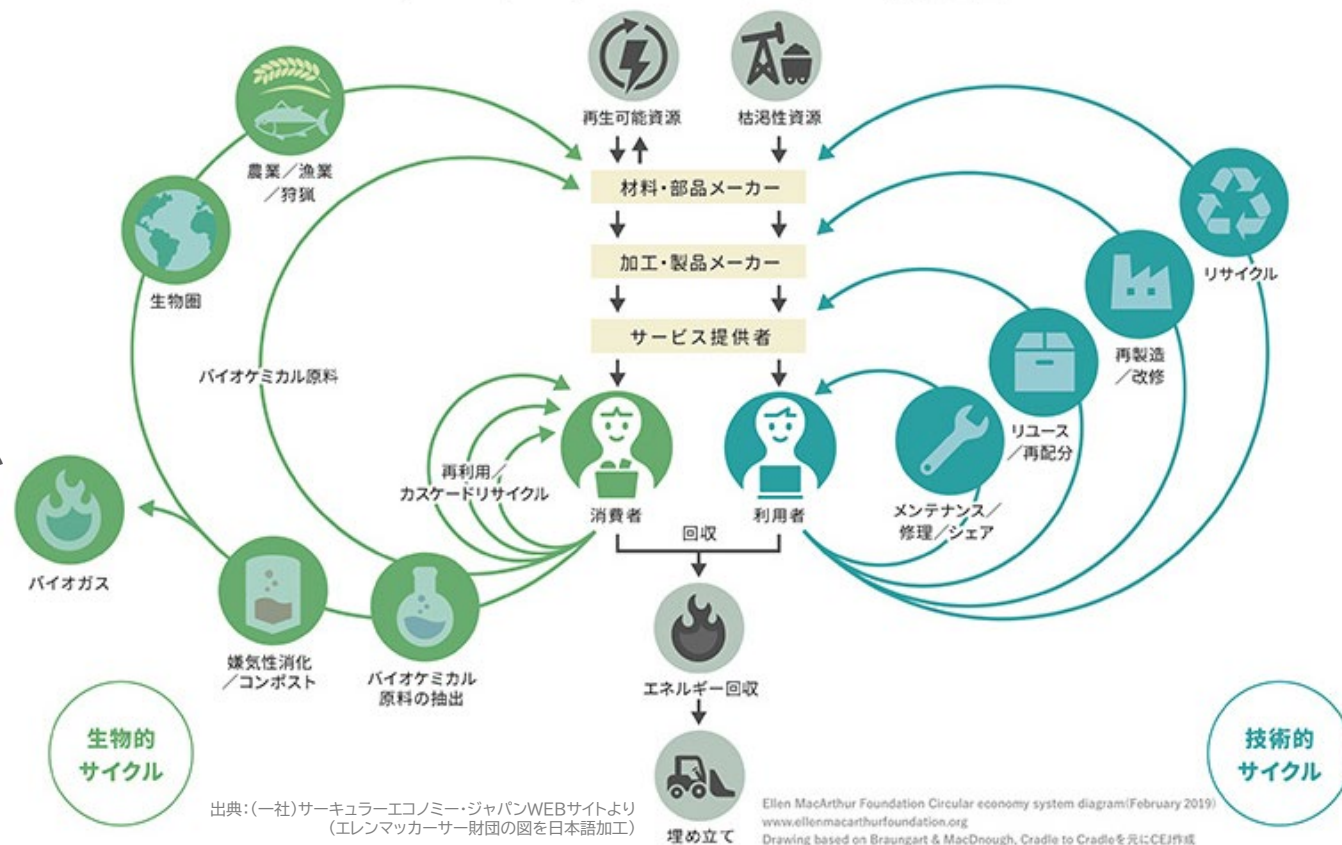
重点テーマ

- ・地域インフラ
(エネルギー、リサイクル、
バイオケミカル、都市鉱山)
- ・その他周辺事業 etc

ビジネスモデル

- ・エネルギー資源商社
- ・リユース・シェアリング
プラットフォーム
- ・循環型街づくり
- ・回収とリサイクル

サーキュラーエコノミー 概念図



なぜサーキュラーエコノミーなのか？(1/3)

サーキュラーエコノミーと地方創生の親和性

サーキュラーエコノミーは、資源の回収や再利用を通じて、資源の再資源化を目指す考えであり、地球温暖化や資源枯渇問題の解決に欠かせません。

資源の再資源化には広大な施設と土地が必要となることから、関連企業の拠点は地方に多く、「地域の雇用」や「街づくり」など**地方創生**に直結しています。



- ① FVCの脱炭素・DX化の取り組みを通じて、リサイクル関連企業を地域に誇れる**ブランド企業**にする。
- ② サーキュラーエコノミーを推し進め、地方創生（**地元での事業拡大 及び 事業継続**）を実現する。

①と②の**循環**を通じて更なる成長を目指していきます。

なぜサーキュラーエコノミーなのか？(2/3)

運営ファンドを通じて、数多くのサーキュラーエコノミー関連企業へ投資を実行済み

投資先企業と交流会（Circular Economy Forum）を開催（予定）し、本体直接投資した企業（永久保有型M&A）との**新規事業シナジー**の創出を図る。

サーキュラーエコノミー関連企業 投資実行済み

24 社

サーキュラーエコノミー領域（投資実行済み）

脱炭素・リユース・リサイクル・リサイクル・リフォーム・空き家解消
産業廃棄物の利活用・浄化・バイオマス・生態系維持及びモニタリング
森林管理・環境負荷軽減・廃棄抑制・食品ロス削減・シェアリング

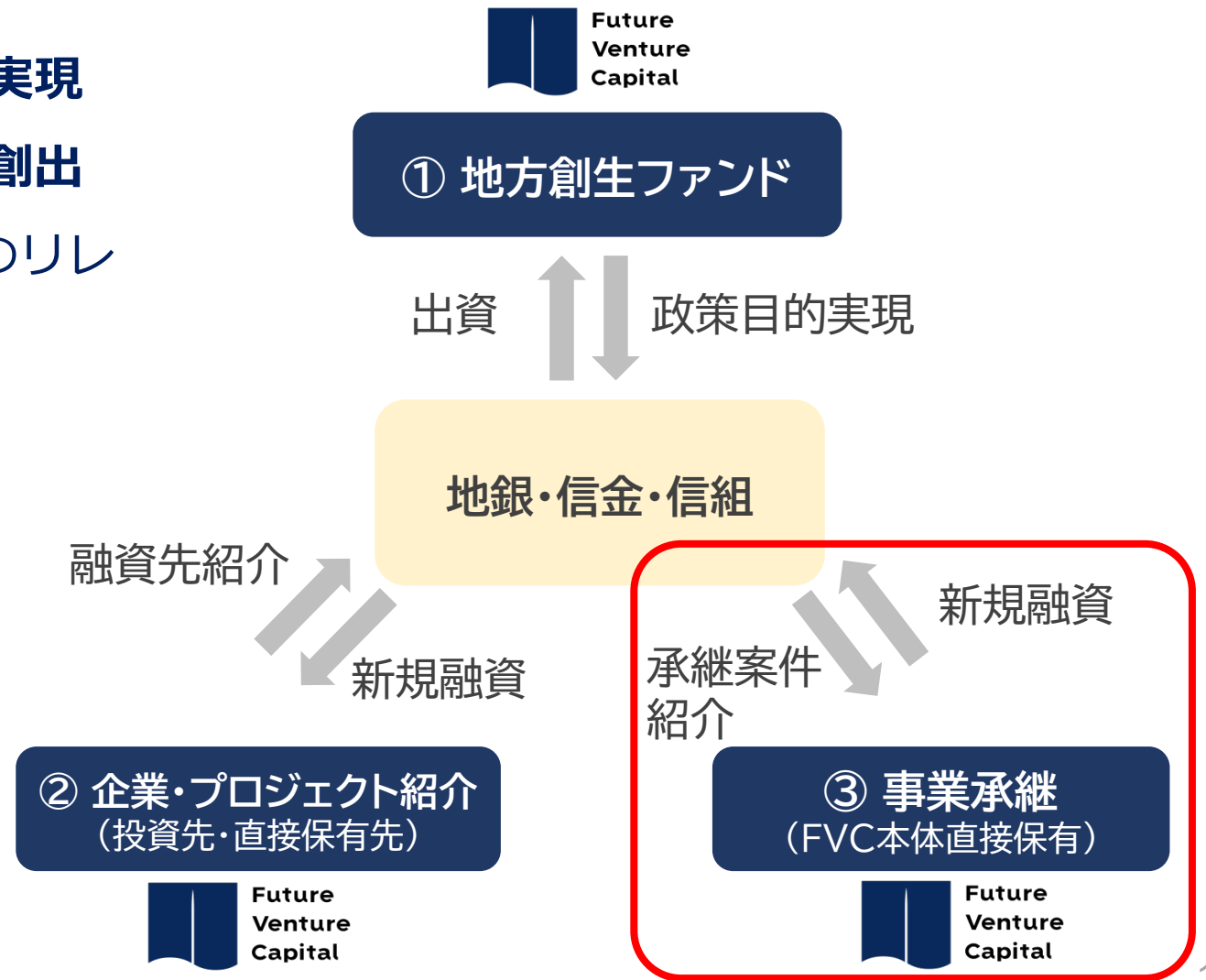
なぜサーキュラーエコノミーなのか？(3/3)

創業以来培ってきた地域金融機関とのリレーションを活用

- ① ファンドを通じた地方創生という政策目的の実現
 - ② 企業・プロジェクト紹介を通じた融資機会の創出
- 創業以来、上記①②を通じて地域金融機関とのリレーションを培ってきました。

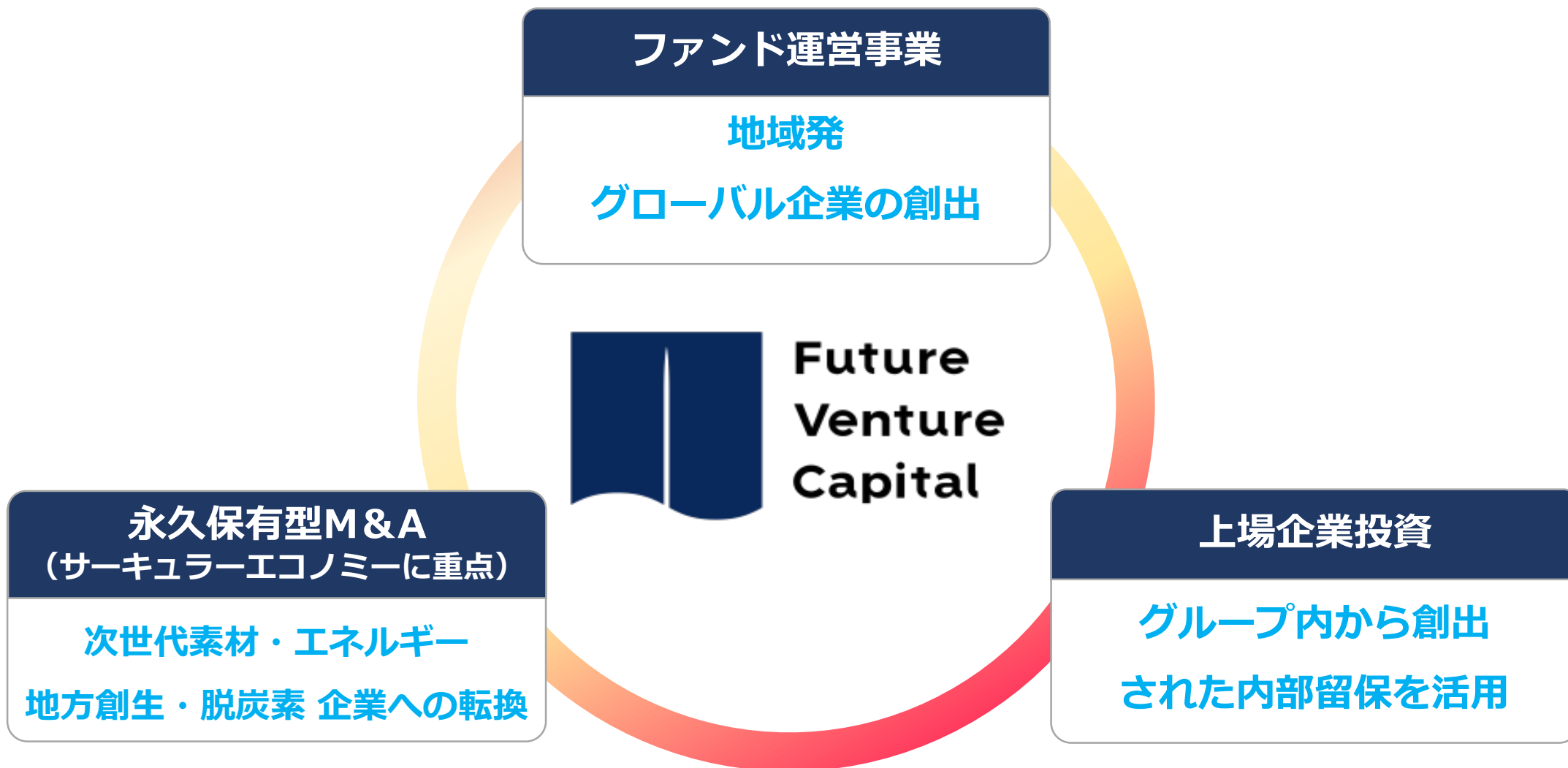
これまでのリレーションをさらに活用して、

- ③ 事業承継案件の紹介を通じた融資機会の創出
- という新たなリレーションを強化し、**地域金融機関と協調して後継者不足・育成に悩む黒字企業の事業承継問題を解決**していきます。



1	決算概要	P.4
2	各事業の概要	
	ファンド運営事業	P.8
	永久保有型M&A	P.13
3	真の金融の実現を	P.18

日本版バークシャーハザウェイを目指します



免責事項

本資料は、フューチャーベンチャーキャピタル株式会社（以下「FVC」）及びその子会社（FVC Tohoku株式会社を含み、以下FVCと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時において入手した情報等に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。こうした記述は将来の業績予想を保証するものではなく、将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際とは異なる可能性があることにご留意ください。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるその他要因については、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照下さい。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券並びにファンド持分（又は同等の有限責任持分）への投資勧誘を目的とするものではありません。本資料に係る一切の権利は、他資料等の引用部分を除き当社グループに属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は難くお断りします。本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。



Future Venture Capital